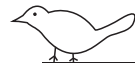


社会福祉法人そよかぜの機関紙

第109号

発行2012.1.15

年4回発行



社会福祉法人そよかぜ

羽村市栄町3-3-1

☎042-578-0855

fax.042-578-0466

そよかぜだより

そよかぜ事業所交流会を開催しました!

昨年11月23日(勤労感謝の日)に開催された「そよかぜ事業所交流会」は、そよかぜが運営する事業所間の利用者、保護者、役職員、その他関係者の交流と親睦を図ることを目的に平成22年度から始めた行事で、今回が2回目となります。本交流会は、それぞれの事業所が趣向を凝らした出し物(売店、ステージ

発表、作品展示、お楽しみ催し、などなど)を持ち寄って行う「手作りのイベント」です。準備には、理事会および各事業所の役職員からなる実行委員会を中心に、利用者・役職員が一致協力してかかりますが、日々の仕事の合間を縫って行うため、なかなか大変です。でも、準備作業もまた、お互いの交流・親睦の場にな

っています。こうした「努力の成果」については、本紙の記事をご覧ください。なお、本交流会の開催に際しまして、駐車(輪)場をお貸しいただいた羽村市立栄小学校様ほか、ご協力頂きました多くの皆様方に、この場を借りて心より厚く御礼申し上げます。





写真左から、増田理事、堀内施設長、野崎理事長、堀米理事、宇津木副理事長、西岡理事、羽村監事。

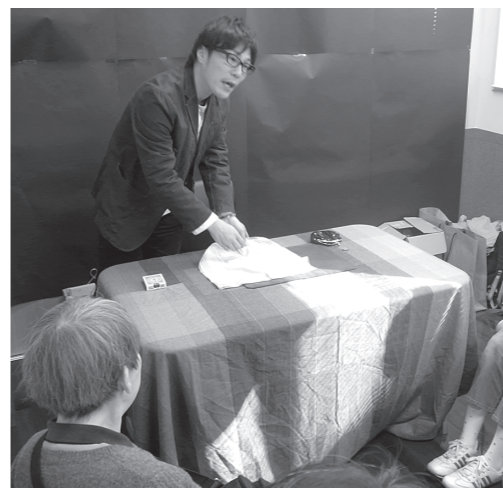
新年を迎えて

野崎功市 (社会福祉法人そよかぜ理事長) = 文

明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年は東日本を襲った未曾有の巨大地震や、想像を絶する津波、加えて、福島原発事故による放射能汚染など、日本全土を震撼させる事態が発生し、中部地方でも台風による集中豪雨の被害が続発するなど、日本各地で大災害に見舞われた年となってしまいました。正月を迎えた現在でも多くの罹災された方々は、その苦しみを乗り越えようと懸命な日々を過ごしているのではないかと思います。一日も早い立ち直りを祈るばかりです。さて、そよかぜの運営につきましては、災害や円高不況などによるベアリング加工や農業機械包装の受注への影響を懸念しておりましたが、関係会社の配慮や関係皆様の暖かい、ご支援を頂き授産事業も順調に推移することが出来ました。ここに改めて、心からお礼と感謝を申し上げます。なお、昨年からはひばり園では、利用者定員を66名から76名に拡大すると共に、

利用者が受注先会社内で作業を行う「企業内作業」を開始することができ、また、就労移行支援事業では1名の利用者が一般企業に就職することもできました。また、リサイクルショップくれよんの運営につきましては、収益事業から社会福祉事業へ利用者本位の運営形態に衣替えすることにより、好調にスタートすることができました。資源回収事業につきましても多くの市民皆様のご協力をいただき有難うございました。ただ、スマイル工房につきましては、定員超過状態となり利用希望の待機者に対応できない状況や、グループホームほほえみ館の利用登録者の減少、宿泊訓練施設つくしの家の利用減による稼働率の低下など、今後にとって難しい課題が残されました。

いずれにいたしましても、障害を持つ方々の支援、充実に向け、本年も役職員一同努力して参りますので、行政当局をはじめ関係企業、市民皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。



障害者就労支援センター エール

今年の事業所交流会では、会場をアパートの部屋に見立てマジックショーを行いました。当日は利用者さんからご家族の方まで、多くの方が見に来てくださいました。また部屋らしく私物も展示し、アットホーム(?)な空間を作ることができたと思います。見に来てくれた方々にもトランプを混ぜてもらったり、カードにサインしてもらったり、近い距離で楽しんでもらえたと思います。いやあ〜本当に緊張しました。

そよかぜ『そよかぜ事業所交流会』
さらに交流が深まった
ニュース 有意義で楽しい一日でした。



福祉作業所スマイル工房

「フランクフルト」販売と新しい企画として「まと当て」を行いました。「まと当て」はうまくまとにボールが当たるたびに歓声が上がり、楽しい雰囲気でも盛り上がりました。スマイルの利用者とゲームに参加された方々とのふれあいも見られました。午後のステージ発表では、ひばり園の皆さまと終わりのほうで合唱したり、男性利用者が自ら作詞作曲した曲をギター演奏するなど、昨年以上に他事業所の皆様との交流が深められた一日だったと思います。



そよかぜ役員会

前回の好評を受けて、今回も役員会は「焼きそば店」を出店しました。さすがに役員(理事・監事・評議員)の皆さんは、町内会などの地域活動で長年培った(?)実力を大いに発揮し、焼きそばを手際よく作ってくれました。常に長蛇の列で、その味・ボリュームともに好評でした。



福祉作業所ひばり園

ひばり園では、豚汁販売、絵かるた大会、プラ板キーホルダー作り、喫茶コーナー、ステージ発表をおこないました。野菜を切り、炒めるところからスタートした豚汁は、おいしいと大好評。夏頃から作製し始めた大型絵かるたは、ケガ人が出るのでは!?と思うほど白熱しました。プラ板キーホルダー作りは、自分だけのオリジナルキーホルダーが作れたと、皆大満足。昼休みに練習したコーラスとハンドベルも大成功! みんなが協力して作りあげた交流会でした。



リサイクルショップくれよん

沖縄のお菓子「ちんびん」を出店しました。ちんびんとは「黒糖の香り豊かな沖縄風クレープ」で、作り方もいたって簡単です。今年度から就労継続支援B型の一員となったくれよんですので、さっそく利用者さんにも試食から参加していただきました。その甲斐あって、利用者さんは本番も余裕の表情♥手のひらサイズと50円という手頃さで、お客様もたくさん! おいしい時間を過ごしました。



宿泊訓練施設つくしの家

去年のゲームに変わり「くじ」を行いました。はずれなし!! つくしの家夕食御招待、支援員とツーショット写真を撮るなど、盛り沢山の景品で喜ばれました。



グループホームほほえみ館

皆さんのリクエストにより、今年もお汁粉を作りました。「お汁粉いかがですか〜」と、世話人さんのチームワークも良く、お陰様で完売!!

各事業所の一年を振り返って

堀内政樹(社会福祉法人そよかぜ施設長)=文

昨年そよかぜは、社会福祉事業3、公益事業2、収益事業1の計6事業を運営してきました。それぞれ課題はあるものの、おかげさまで全体としては順調に推移することができました。新しい試みにも積極的にチャレンジしました。以下に、それぞれの事業所の昨年一年の様子を簡単ではありますがご紹介します。

まず、社会福祉事業は障害者自立支援法に基づき運営されている福祉作業所ひばり園、福祉作業所スマイル工房、グループホームほほえみ館の3事業所があります。

ひばり園には、就労移行支援(定員6名：一般企業への就職を目指す)、就労継続支援B型(定員70名：施設通所作業を主とする)の2つのグループがあり、昨年、就労移行支援から1名の利用者が一般企業へ就職しました。就労継続支援B型では、それまで収益事業として行ってきたリサイクルショップくれよんを4月からひばり園の「出張所」と位置づけ、障害者の働く場(作業所)として運営することになりました。また、仕事を頂いている企業様の事業所の一角をお借りして、利用者と職員がチームを組んで作業をする「企業内作業」を6月からスタートさせました(そよかぜだより108号(2011.10.16)で特集)。ひばり園としては両方とも初めての試みでありましたが、おかげさまで両事業とも順調に推移しています。

また、ひばり園就労継続支援B型の「平成22年度の工賃実績」が昨年11月に東京都福祉保健局から公表されました。東京都には、ひばり園と同様の指定事業所(就労継続支援B型)が345事業所(調査時)あり、この中で、私たちひばり園は、次のようになりました。

●利用者定員数60名(平成23年度に70名に定員増)

345事業所中 第7位(同数事業所13か所)(第1位 120名)

●工賃支払総額(一年間に利用者さんに支払った工賃の総額)

345事業所中 第4位 22,096,870円(第1位 25,966,990円)

●工賃平均月額

345事業所中 第22位 31,567円(第1位 72,322円)

(※)それぞれの事業所にはそれぞれの目的や特色・得意分野等があり、同じ土俵で活動しているわけではありません。したがって、この順位付けは優劣を示すものではなく、あくまでひとつの参

考値としてご理解ください。

福祉作業所スマイル工房は、市内に唯一つの心に病を持つ人たちの作業所(就労継続支援B型：定員20名)で、天然酵母のパン・クッキーの製造・販売や室内軽作業を行っています。室内軽作業ではひばり園と連携し、羽村市の指定ゴミ袋のパッケージ作業を新たにスタートさせました。そよかぜに運営統合して2年目を迎えています。事業所交流会などへの参加を通して、他事業所との親睦を深めました。現在、定員を超える利用希望者があり、事業所規模の拡充が急務となっています。

グループホームほほえみ館(定員4名)は、平成17年に4名の利用者でスタートし、安定して事業を進めてきましたが、昨年2月に1名が退所した後、3名の利用者で運営しており、現在、利用希望者を「募集中」です。

公益事業としては、そよかぜ独自事業の宿泊訓練施設つくしの家と羽村市の委託事業である羽村市障害者就労支援センターエールを運営しています。

つくしの家は平成4年に開始した歴史のある事業(平成10年に現在の場所に移転)で、地域の在宅障害者に宿泊訓練等のサービスを提供していますが、近隣地域にグループホームやショートステイ事業所等が増えたこともあり利用者は減少傾向にあります。

エールは、障害者の一般就労を支援する相談援助機関です。障害をもつ人が一般企業に就職を希望する場合、様々な困難があるのが常ですが、今の社会情勢を反映してか、昨年はさらに厳しい状況にありました。そんな中、「就職・勤続を祝う会～就職者の集い」がエール主催で行われ、登録者・保護者・関係者など総勢33名が参加して、表彰や近況報告、ビンゴゲームなど皆で楽しいひと時を過ごし「また明日から頑張ろう!」と互いに励まし合いました。

収益事業として、資源回収事業を行っています。市民の皆様のおたたくいご協力により順調に推移しています。今後ともよろしくお願い致します。

そよかぜは、地域の障害者福祉の充実・発展に貢献するため創設され、多くの皆様方に支えられて今日に至りました。本年も、その職責をしっかりと自覚し、精一杯努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「そよかせコラム」

「ご存知ですかー」^{こうりよ}「行旅死亡人」とは 社会の絆が絶たれた人たち

「近くの公園に木製のベンチがあつて、一人のホームレスらしき男の人が寝るようになりました。しばらくして市役所の人が出てきてベンチを四つに仕切る柵を作り寝られないようにしました。男の人は二、三日、窮屈そうに座っていました。あのおじさんはどこへ行ったのだろうと思ひました。市民の通報によつて市

動しますが、行旅は目的なくさまよい歩き、その死亡人とは要するに「行き倒れ」のことです。一例を紹介します。

行旅死亡人

本籍、住所、氏名不詳、性別男性、年齢60〜70歳位、身長160cm位、着衣は黒色ジャンパー、白色Tシャツ、サンダル、所持金品150円とボールペン1本、死亡推定時刻は〇〇日〇〇時頃、公衆トイレ内にて縊死状態で発見されました。身元不明のため遺体は火葬に付し、遺骨は当市で保管しております。お心当たりの方は当市〇〇課までお申し出ください。

平成〇〇年〇〇日、

〇〇県〇〇市長

官報は休日以外の毎日発行され、この行旅死亡人の記事が多い日には十人以上も掲載されま

す。死因に少しでも不審な点があれば警察が捜査をしますが、ここに掲載されるのはその恐れがなくあきらかに自殺とみられる例がほとんどです。平成9年

から10年にかけて自殺者数が急増し、以後、13年連続で3万人を超えています。その中のかなりの部分が、専門家の間で「行旅さん」と呼ばれ引取者がいない人たちで占められていることを、私たちはもっと知るべきではないでしょうか。

どのような状態のときに行旅死亡人と見なされるかといえば、

死にたいと見なされるかといえ、

実はれっきとした法律で定められて

ています。さてその法律です

が、あまりにも立派すぎて普通

の人が見るとびっくりするよう

な代物ですので、一部を次に紹

介します。

行旅病人及行旅死亡人

取払法(明治32年)

【用語の定義】

第一条 此ノ法律ニ於テ行旅

病人ト称スルハ歩行ニ堪ヘサル

行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途

ヲ有セス且救護者ナキ者ヲ謂

ヒ行旅死亡人ト称スルハ行旅

中死亡シ引取者ナキ者ヲ謂ウ

②住所、居住若ハ氏名知レス且

引取者ナキ死亡人ハ行旅死亡

人ト看做ス

いかがですかこの文章は。

謂ウ(いう)、看做ス(みなす)な

どの用語、濁点なしの文章は、

古色そう然として時代がかった

古文書みたいですよ。さらに「歩行ニ堪ヘサル病人ニシテ」などの表現はこれこそまさに「行き倒れ」そのものです。この法律は明治32年にできて以来、基本的な改正は一度もなく現代まで生き残っている化石のような法律なのです。比較のため次の法律をご覧ください。

ホームレスの自立支援等に関する特別措置法(平成14年)

第一条 この法律は、自立の

意思がありながらホームレス

となることを余儀なくされた

者が多数存在し、健康で文化

的な生活を送ることができな

いであるとともに、地域社会

とのあつれきが生じつつある

現状にかんがみ……。

いまの法律は、すべてこのよう

な文章で書かれ、だれが読んで

もすんなり分かるようになって

います。その中で行旅死亡人の

法律だけがただ一つまるで文化

財にして保存したいような姿で

残っているのです。歴史の資料

としてではなく、現代も生きて

使われているのです。

江戸時代にお上から民(たみ)

への御達(おたつし)は、町角に

高札(こうさつ)を立てて示され

ました。板に墨で書いて御触(お

ふれ)といいました。その雰囲気

をさらに伝えるものとして、

もう一つの条文を紹介し

第八条 必要ノ場合ニ於テハ市町村ハ行旅死亡人ノ同伴者ニ対シテ亦相当ノ救護ヲ為ス

ヘシ

ちゃんとした同伴者がいれば身

元不明とはならないはずなのに、

それでも行旅死亡人と見なすか

らには、その同伴者として幼い

子どもを想定しているのではな

いでしょうか。この法律を作っ

た作者の頭の中では、動かなく

なった親のそばで泣いている幼

い子どもの姿が浮かんでいたの

かもしれません。これを江戸時

代といわずしてなんといいまし

ようか。天明の飢饉の高札のよ

うな法律です。

大震災以後、社会のつながり

とか絆(きずな)が強調されて

います。行旅死亡人の問題はそ

のようなものがすべて絶たれ、

福祉の手も届かなくなった最底

辺の問題です。だから高札のよ

うな法律で処理されていて、そ

れで用が足りているのだとす

と、まるで日本社会の恥部をこ

の法律が暗示しているような気

がしてきます。

(西岡英一)

昨年一年間の障害福祉制度の動き

障害者虐待防止法、改正障害者基本法などが成立するとともに、平成21年8月の政権交代による現行の障害者自立支援法の廃止方針に基づき、これに代わる障害者総合福祉法(仮称)(平成24年度通常国会に提出、平成25年8月施行の予定)の成立に向

けて「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」がまとまるなど、今後の障害福祉制度の型(かたち)に大きく影響する動きが、めまぐるしく展開した一年でした。特に、障害者自立支援法に代わる障害者総合福祉法については、骨格提言

は出たものの法案作りはこれからであり、そよかぜの事業にも直接関わることから、その動向が大いに気になるところです。わが国の障害福祉をより良いものにするために、是非、実のあるものになっていただきたいと心から祈るばかりです。

各事業所からのお知らせ

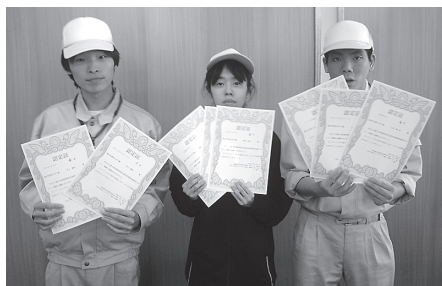


福祉作業所ひばり園

待ちに待った茨城への日帰り旅行。明太子工場で見学や試食をし、昼食はなんと! お寿司の食べ放題! 新鮮な魚を思う存分食べました。水族館ではイルカショーや珍しい生物を見て大興奮! 道中の車内ではカラオケで盛り上がり、天候にも恵まれた笑顔の絶えない一日でした。

就労移行支援事業では、12月5日(月)に羽村特別支援学校にて、東京ビルメンテナンス協会が行う清掃技能検定が行われ、ひばり園より3名の利用者さんが挑戦してきました。この清掃技能検定では清掃の手順のみならず、身だしなみやあいさつ、態度なども評価されます。今回は受験種目も増やし、2ヶ月間毎日練習に励みました。受験種目はテーブル

拭き、自在ぼうき、ダスタークロス、スクイージーの中からそれぞれ3種目を選んで受験しました。練習通り出来たり出来なかったり、一喜一憂ありましたが、3名とも毎日の練習の積み重ねが良い結果として現れたことに素直に喜び、達成感と自信を得ることができました。



リサイクルショップくれよん

昨年よりリサイクルショップくれよんへのご提供・ご利用、誠にありがとうございました。スタッフ一同、心より御礼申し上げます。本年もどうぞ変わらぬご愛顧をよろしくお願い申し上げます。みなさまのお越しをお待ちしております。

福祉作業所スマイル工房

2月のバレンタインシーズンを迎えるにあたり、クッキーの型や包装に工夫を凝らし

た品物のご提供を考えています。ぜひお召し上がりください。

●スマイル工房のパンとクッキーは羽村市農産物直売所、リサイクルショップくれよん、喫茶いちよう(羽村市福祉センター内、クッキーのみの販売)にて販売しております。数に限りがございますので、売り切れの際はご容赦ください。

障害者就労支援センター エール

「エール」は羽村市より障害者就労支援事業を社会福祉法人そよかぜに委託された事業です。市在住の障害のある方で、就職を希望している方や働いている方などからのご相談をお受けし、ご支援を行っています。

●利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時

宿泊訓練施設つくしの家

グループホーム、施設などに入所する前の「親離れ、子離れ」の訓練をするところです。

グループホームほほえみ館

急募1名(男性に限り)。

資源回収時のご連絡は「ひばり園」へ。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年は『そよかぜ事業所交流会』のほかにも、各事業所ではたくさんの行事を行いました。そのどれもに参加者の笑顔が見られた、幸せな一年でした。昨年はつらいニュースも多かった年ではありましたが、今年は昨年より笑顔の多い年になることを願います。

各事業所の連絡先

福祉作業所ひばり園 ☎042-578-0855

福祉作業所スマイル工房 ☎042-578-2723

リサイクルショップくれよん ☎042-578-2575

羽村市障害者就労支援センター エール ☎042-570-1233

羽村市心身障害者宿泊訓練施設つくしの家 ☎042-579-6849

グループホームほほえみ館 ☎042-578-2875